

# バイオ・創薬ベンチャー

大手製薬の研究開発を担う役割も果たし始める

平均年収・年齢  
ペプチドリーム / 993万円(40・8歳)  
シンバイオ製薬 / 1195万円(49・9歳)  
ユーグレナ / 573万円(36・8歳) (初20・8万円)  
ソレイジア・ファーマ / 1576万円(48・4歳)

### がん以外

<b>ジーエヌアイグループ</b> [2160] 肺線維症薬は中国で販売。肝臓などの線維症治療薬開発。 売上高 ▲26億円 ↑ 営業利益 ▲1.7億円 ↑	<b>リボミック</b> [4591] 核酸医薬。RNA分子を使い標的分子の働きを阻害、調節する。 売上高 0.6億円 ↓ 営業利益 ▲8.9億円 ↓
<b>UMNファーマ</b> [4585] 独自のワクチン技術でノロ、ロタなどのワクチン開発。癌野戦製薬と提携。 売上高 1.0億円 → 営業利益 ▲4.9億円 →	<b>ラクオリア創薬</b> [4579] 旧ファイザー-日本法人中央研究所が独立。動物薬からヒト消化器系医薬も。 売上高 14億円 → 営業利益 ▲1.5億円 →
<b>メドレックス</b> [4586] イオン液体利用した疼痛管理用の経皮吸収貼付剤開発。 売上高 1.9億円 ↑ 営業利益 ▲9.8億円 ↑	<b>メディシノバ</b> [4875] 神経疾患、薬物依存症、線維症治療薬などを開発。 売上高 0億円 → 営業利益 ▲14億円 ↓
<b>テウエスタン・セラピクス研究所</b> [4576] 緑内障、白内障治療薬開発が支柱。ヘリオスの眼科手術用補助剤譲受。 売上高 2.5億円 ↑ 営業利益 ▲6.3億円 ↓	<b>ノーベルファーマ</b> 成功したバイオベンチャー、希少疾病、難病治療薬を開発。承認取得実績は13件。 売上高 72億円 ↑ 営業利益 ▲0.2億円 ↑
<b>窪田製薬HD</b> [4596] 旧アキュセル。本社を日本に移転。眼病治療に集中。 売上高 事業収益なし ↓ 純利益 ▲34億円 ↑	<b>そーせいグループ</b> [4565] 細胞表面にある情報伝達タンパクを標的とする医薬品開発。 売上高 69億円 ↓ 純利益 ▲26億円 ↓
<b>ユニーク</b> <b>ユーグレナ</b> [2931] 独自のミドリムシ培養技術で食糧からジェム燃料まで開発。 売上高 138億円 ↑ 営業利益 9.5億円 ↑	<b>ペプチドリーム</b> [4587] 独自の環状ペプチド創出技術で世界の大手に技術供与。自社創薬も。 売上高 48億円 ↑ 営業利益 24億円 ↓
<b>ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ</b> [6090] 独自の代謝物網羅的解析技術でうつ病バイオマーカー開発。 売上高 9.3億円 → 営業利益 ▲1.4億円 ↓	<b>スリーディーマトリクス</b> [7777] 米国MITから導入した自己組織化ペプチド技術で手術材料など開発。 売上高 2.2億円 ↓ 営業利益 ▲18億円 ↓
<b>免疫生物研究所</b> [4570] 遺伝子組み換えカイコから抗体や医薬品用タンパクを作製。 売上高 7.5億円 → 営業利益 ▲0.4億円 ↑	<b>創薬基盤技術</b> <b>カイトムバイオサイエンス</b> [4583] 理研究、独自の抗体作製技術で医薬候補抗体を開発。自社創薬も。 売上高 2.5億円 → 営業利益 ▲8.8億円 ↑

### がん

<b>ナノキャリア</b> [4571] 東大発ミセル化技術使ったナノ粒子で腫瘍に直接薬剤を届ける。 売上高 2.5億円 ↑ 営業利益 ▲53億円 ↓	<b>がんペプチドワクチン</b> <b>オノセラピーサイエンス</b> [4564] 中村祐輔シコ大名誉教授が発明したがん治療薬を開発。 売上高 2.1億円 ↓ 営業利益 ▲29億円 →
<b>ジーンテックサイエンス</b> [4584] バイオミメタから抗体医薬、再生医療に参入。ノーリツ算機C傘下。 売上高 10億円 ↓ 営業利益 ▲9.1億円 ↑	<b>ブライトパス・バイオ</b> [4594] がん免疫に着目した治療薬開発を目指す。細胞治療研究も。 売上高 3.5億円 ↓ 営業利益 ▲15億円 ↓
<b>キャンパス</b> [4575] がん細胞の細胞周期に着目、副作用少ない抗がん剤開発。 売上高 1.0億円 → 営業利益 ▲4.0億円 →	<b>シンバイオ製薬</b> [4582] 血液がん治療薬トリアキシンの適応拡大、液剤経口剤に展開。 売上高 34億円 ↑ 営業利益 ▲39億円 ↓
<b>オノコロスピオファーマ</b> [4588] 岡山大学発。風邪のウイルスで腫瘍を溶解するがん治療薬開発。 売上高 2.2億円 ↓ 営業利益 ▲10億円 ↓	<b>ソレイジア・ファーマ</b> [4597] 抗がん剤による口腔炎症緩和剤などが支持療法とがん治療薬開発。 売上高 4.1億円 ↓ 営業利益 ▲10億円 ↓
<b>創薬支援</b> <b>フェニックスバイオ</b> [6190] 独自のヒト肝細胞を持つマウスで薬効試験などを受託。 売上高 9.0億円 ↓ 営業利益 ▲2.6億円 ↓	<b>DNAチップ研究所</b> [2397] DNA解析用チップからRNAによる疾病診断シフト、エンブラス傘下。 売上高 3.6億円 ↑ 営業利益 ▲1.2億円 ↑
<b>トランスジェニック</b> [2342] 疾患モデルマウス、遺伝子改変マウスで非臨床試験受託。 売上高 36億円 ↑ 営業利益 0.6億円 ↓	<b>グローバルシステムサイエンス</b> [7707] 遺伝子、タンパク質などの体外診断の全自動システム機器を開発。 売上高 38億円 ↓ 営業利益 ▲4.4億円 ↑

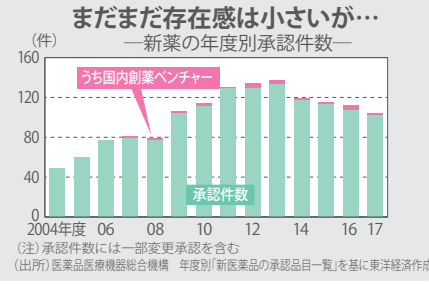
### 四季報記者のチェックポイント!

強い創薬基盤を持つベンチャーや、海外ですでに販売されているため開発期間が短いドラッグラグ解消型ベンチャーは成長が早い傾向にある

#### オススメ情報源

バイオンダストリー協会 <https://www.jba.or.jp/>  
リンクされている「バイオ学園」コーナーは楽しみながら知識が深まる

『新薬に挑んだ日本人科学者たち』(塚崎朝子著、講談社ブルーバックス、2013年)  
スタチン、クワリタリブ、アリセプトなど、日本人が生み出し世界で治療に貢献する医薬品の物語



ここ数年、大手製薬による内外の創薬ベンチャー買収や資本業務提携が続いている。資金力のある他業種からの参入も少なくない。医薬品の研究開発には時間と費用がかかる。抗がん剤の最終段階の試験では、数百人に投与し経過を5年は見なければならぬ。こうした例はさらに、数百億円のコストがかかることも多い。このため、大手製薬でも創薬ターゲットを得意分野に絞り、それ以外からは撤退する動きが強まっている。

大手製薬はM&Aやシーズの導入などさまざまな手で開発案件を探し、入手する動きを加速。理念が先行し実現手続が不得意な学術発祥が多い創薬系ベンチャーだが、昨今は得意分野の補強など大手製薬からの期待が高まる。

創薬ベンチャー側も、自力で販売まで持ちこめる資金力がないため、ベンチャーキャピタルや大手製薬との連携を目指す。製薬業界の厳しさが創薬ベンチャーにとっての追い風となっている。

ここ数年、大手製薬による内外の創薬ベンチャー買収や資本業務提携が続いている。資金力のある他業種からの参入も少なくない。医薬品の研究開発には時間と費用がかかる。抗がん剤の最終段階の試験では、数百人に投与し経過を5年は見なければならぬ。こうした例はさらに、数百億円のコストがかかることも多い。このため、大手製薬でも創薬ターゲットを得意分野に絞り、それ以外からは撤退する動きが強まっている。

大手製薬はM&Aやシーズの導入などさまざまな手で開発案件を探し、入手する動きを加速。理念が先行し実現手続が不得意な学術発祥が多い創薬系ベンチャーだが、昨今は得意分野の補強など大手製薬からの期待が高まる。

創薬ベンチャー側も、自力で販売まで持ちこめる資金力がないため、ベンチャーキャピタルや大手製薬との連携を目指す。製薬業界の厳しさが創薬ベンチャーにとっての追い風となっている。

### 注目会社

シンバイオ製薬 [4582]

希少な血液がん治療薬「トリアキシン」の承認を2010年に取得以来、用量追加、効能追加などで着実に販売量を伸ばす。17年には新剤形(液剤)の権利取得、経口剤の治験開始など市場拡大を図る